

総合科目の花田先生

手塚奈々子

教養教育センター教授の花田宇秋先生がこの3月で本学を退職されます。花田先生は当研究所の所員でもあり過去4回講演して頂き『紀要』にも1度御執筆頂きました(本研究所の所員になられた経緯は、加山先生のお勧めによるそうです)。私は、10年間総合科目「世界宗教」という授業をご一緒に担当させて頂きましたので、心からの感謝を込めて一筆とらせて頂きます(私は本学に着任してから12年になりますが、初めの1年はキリスト教から久山先生が担当されており、また、私が在外研究中花田先生はサヴァティカルで休講でしたので、10年間ご一緒させて頂きました)。

花田先生は、ご専門が歴史学・特にイスラム史であり、論文の他に諸事典の項目を執筆されたり、9世紀のアラビア語の文献(パラズリー『諸国征服史』)を和訳されたり等多々貴重なご研究をなさっておられます。

さて、この総合科目「世界宗教」は、仏教、キリスト教、イスラム教について、それぞれ各宗教の内容と歴史と文化に関して各担当教員が講義する科目です。仏教は谷口先生(サヴァティカル中非常勤の土屋先生、谷口先生の後継非常勤の石川先生)、キリスト教は加山先生・久山先生・手塚、イスラム教は花田先生(サヴァティカル中非常勤の小田先生)担当でした。

この科目の特色は、専任教員がすべての授業時間に出るということです(つまり自分が講義しない日も出るということです)。谷口先生と花田先生の授業を聞けるのはとてもおもしろく勉強になりありがたかったのですが、自分が講義する時このヴェテランの先生方が私の授業を聞いておられるのはバクバクもので、あせるといふか緊張しました(花田先生には10年間聞いて頂きましたが、ずっと緊張しておりました)。

花田先生の授業は、資料典拠にもとづいたお話で、

授業の方法等も多いに参考になり、感謝しております。また、週1度授業の前と後に若干の打合せや感想を述べ合う時間を持ってました。おっしゃって下さる感想から「ああ、今度はこうしたらいいのだな」等多々悟らせて下さり、またキリスト教全般についても示唆して下さいとでもありがたかったです。

毎週一度授業を一緒に担当し話し合うというのは、学内の教員同士でめったにない貴重な機会だと思います。なので、花田先生は私にとって本学で一番話した教員のお一人だと思います。学問や授業のこと等助けられただけでなく、精神的にも支えて頂きました。花田先生は、出身大学が上智でそしてイタリア(ローマ)に1年半留学されており、イタリアとカトリックで通じる話題も多く、また、パ・リーグの話も合いました(花田先生はスポーツマンで今はない弱かった時代の阪急のファンです。私は梨田監督のファンです)。時々他の仕事で厳しかった時や以前体調が悪い時もありましたが、そういう時でも花田先生と話すことが晴れるということが多々ありました。そして長年関わって頂いた間に一度も気まずいことがなかったというのは、すばらしいことだと思い、心から感謝しております。

これからも花田先生とイタリアを中心に(花田先生はイスラムとダンテに関して当研究所の『紀要』に執筆されておられます)共同研究していきたいと思っております。今までの感謝と共に、これからも何卒よろしくお願ひ致します。

てづか・ななこ(主任・本学経済学部教授)